

第1回シネマサロン・セミナー

「『おくりびと』の現場から」

お話：中村典子さん

(株)エンゼルサービス代表

中村典子(ナカムラノリコ)

湯灌師・納棺師。愛知県豊橋市出身。
3人のお母さん(バツイチ)にして、
湯灌業・株式会社エンゼルサービスの代表取締役社長。
前職の会計事務所から転職し、「湯灌」を始める。
様々な問題にぶち当たり、思い通りに進まなかった事も
あったが、持ち前の負けん気の強さで乗り越えて、
今までにお世話をした遺体の数は何千体にもなる。
趣味は編み物。

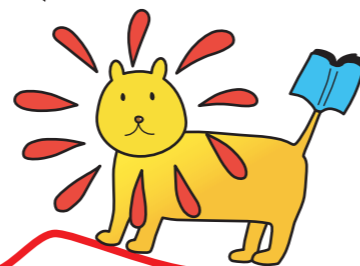
▼株式会社エンゼルサービス OFFICIAL SITE
<http://www.angel-s.jp>



著書
ご遺体専門美容室
～死の現場から～
定価 1,200円



当日 13:00 から、
ホール入り口において
上記の著書を販売します。
印税は、児童養護施設に
寄付されます。



りぶらいおん©LSC

★日時 **6月16日(木)**
14:00～15:30

★場所 **りぶらホール**

★開場 **13:30**

★定員 **280人**

★問合せ **りぶらサポータークラブ事務局**
市民活動センター TEL: 0564-23-3114
E-mail: info@libra-sc.jp

2011.5.12
vol.11

『おくりびと』

シネマ・ド・りぶらの
コラム・ド・シネマ

しみじみと静かに

私は、「納棺師」という独立した職業が存在する事を知らず、「葬儀屋」の仕事の一部だと思っていました。また、納棺師という、いわば嫌悪感を抱いていた職業について、この映画をみてから考え方が変わりました。映画は、しみじみと静かに深い、愛情物語でした。

すばらしいセリフもありました。「生き物は生き物を食べて生きている、死ぬ気にならなきゃ食うしかない。食うなら美味しいほうがいい」「死ぬと言う事は終わりじゃない、そこをくぐり抜けて次に向かう、まさに門です」など。

お父さんの記憶が無い大悟は、石による「石文」で過去を振り返り、自分の気持ちに似た石を探して贈る。新しい命へと、脈々と受け継がれていく尊さも知らされた。

チェロの優しく響く旋律は哀愁を誘い、より深い悲しみとともに、葬る人たちの優しさや葬られる人の人生の深さを、いちだんと高めてくれたメロディーでした。 S.N

その時、自分もこう扱って欲しい

「死」という、従来は忌み嫌われてきた重く暗いテーマを、これだけ温かく爽やかな印象の映画に仕立て上げた監督・俳優さんほか、関係スタッフの皆さんの能力と努力に脱帽！出演者の皆さんはもちろん、吉行さんの孫の可愛い少女、いろいろな死体たちと残された家族の皆さん、重要な石文となった小石たち、旅立ちを象徴して飛び立つ白鳥たちのすべてが過不足なく重要な役割を割り当てられ、各々が見事に演じきっているのに感動しました。

淡く雪をいただいた山々(鳥海山や月山)を背景とする庄内平野、雪に覆い尽くされた田畑、枯れた木造の家々、古ぼけた銭湯、大正っぽい赤レンガの納棺会社、おんぼろの元スナックの実家など、ドラマの舞台たちのすべてが美しく、懐かしかった。

チェロ独奏とチェロアンサンブルだけで全編を彩った、久石譲の音楽も素晴らしかった。久石自作のイメージ曲「おくりびと」の美しさ・優しさはもちろんのこと、事務所で

の主人公ら3人のささやかなクリスマスで使われる「バツハ/グノーのアヴェ・マリア」、主人公の奥さんのおなかの赤ちゃんの胎教に使われる「ブラームスの子守唄」など、場面場面の挿入歌も久石メロディーの源流を暗示しているようで、とても興味深かった。

そして、この作品で初めて知った納棺の儀。茶道の“型”や舞踊の“決め”に通ずる、一つ一つの所作のハツとする美しさの上に、元チェロ奏者を暗示する滑らかな指の動き、やわらかなまなざしと物腰をモックンが見事に演じきっていました。

この映画を見て、少しだけ死ぬのが怖くなくなったような気がします。その時、自分もこう扱って欲しい、正直そう思いました。 K.M.

『おくりびと』の誕生

映画「おくりびと」は、1996年、本木雅弘が『納棺夫日記』(青木新門:著 桂書房刊)を読み感銘を受け、著者である青木新門に映画化の許可を一旦受けたが、映画の脚本ができたとき、小説の結末や宗教感が異なり、「納棺夫日記」を映画の原作とする事を拒否された。そして、「おくりびと」は、あらためて別の作品として製作された。

しかし、私自身も『納棺夫日記』読みましたが、数多くのエピソードが、映画『おくりびと』の中に生かされていました。また、小説の舞台は富山の立山連峰の麓ですが、映画では山形の鳥海山の麓になっている。しかし、土地の雰囲気、共通のものが流れていると思った。

青木新門は小説家・詩人で有りながら、納棺夫の職業を選択して経験した、周囲からの差別・家族や親族との葛藤に悩み、実体験を『納棺夫日記』として記した。脚本を担当した小山薫堂は、山形県庄内へ出かけ、納棺師や火葬場の職員等取材した。「ここは誰もが通過する門だね」や「死はすべての人に訪れる究極の平等だね」の言葉が「おくりびと」テーマになったと、「おくりびとオリジナルシナリオ」(小学館文庫刊)で述べてる。 au

『おくりびと』
フィルムデータ

製作年: 2008年
製作国: 日本
時間: 130分

監督: 滝田洋二郎
脚本: 小山薫堂
音楽: 久石譲

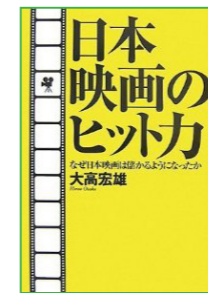
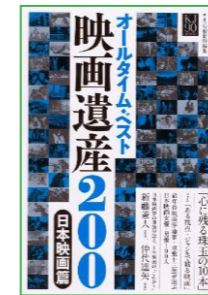
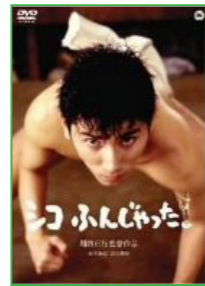
出演: 本木雅弘、広末涼子、山崎努、余貴美子、
吉行和子、笹野高史
第81回アカデミー賞外国語映画賞
第32回モントリオール世界映画祭グランプリ
第32回日本アカデミー賞作品賞ほか

りぶらサポータープロジェクト 「シネマ・ド・りぶら」 『おくりびと』 関連図書案内 & DVD

キャスト：本木雅弘

W 049 『天空静座 Hill heaven』
本木 雅弘
同文書院インターナショナル

778.1 DVD 『シコふんじやった。』
周防 正行 角川映画



日本映画

N 778.2 キネマ旬報社
『オールタイム・ベスト映画遺産 200 日本映画篇』

N 778.2 黒沢 清 岩波書店
『日本映画は生きている 第8巻 日本映画はどこまで行くか』

N 778.0 大高 宏雄
ランダムハウス講談社
『日本映画のヒット力 なぜ日本映画は儲かる』

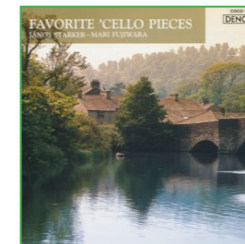
N 778.2 森 直人 フィルムアート社
『日本発映画ゼロ世代—新しいムービーの読み方』

監督：滝田洋二郎

N 778.2 高部 務 東邦出版
『もうひとりの「おくりびと」滝田洋二郎監』

N 778.2 朝日新聞社
『ニッポンの映画監督』（アエラムック）

N 778.2 キネマ旬報社
『知っておきたい映画監督 日本映画編』



音楽

5A 久石 譲 Universal/A & M Records
『おくりびと オリジナル・サウンドトラック』



1D Denon
『白鳥・愛の挨拶 チェロ名曲集』

N 763.4 ヴィクター・セイザー 音楽之友社
『新しいチェロ奏法』



Z 邦楽ジャーナル 2009年4月1日号
『おくりびと〜 memor』

E いせひでこ 偕成社
『1000の風 1000のチェロ』

760 藤原 真理 大和書房
『チェロ、こころの旋律』



914.6 文芸春秋
『チェロと旅（ベスト・エッセイ集）』

脚本・ノベライズ

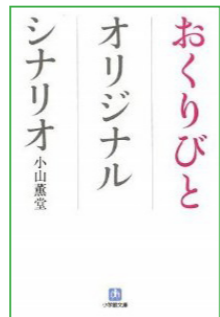
N 778.2 ゴマブックス
『おくりびとオフィシャル・メモリアルブック』

B 912.7 小山 薫堂 小学館文庫
『おくりびとオリジナルシナリオ』

913.6 百瀬しのぶ 小学館
『おくりびと』

N 726.6 小山 薫堂 小学館
『いしぶみ』

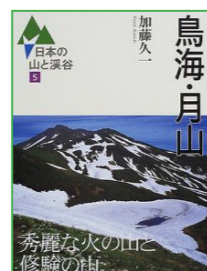
N 726.1 清 つねお 晩成書房
『マンガ石ころアート 楽しく描こう』



舞台：月山

S 291.0 串田 孫一 博品社
『日本の名山 3 月山』

S 291.0 山と溪谷社
『日本の山と溪谷 5 鳥海・月山』



納棺・葬儀

F 913.6 青木 新門 桂書房
『定本納棺夫日記』

I 673.9 熊田 紺也 平凡社新書
『死体とご遺体 夫婦湯灌師と4000体の出会い』

673.9 中村 典子 Wish Publishing
『ご遺体専門美容室 死の現場から』

385.6 公益社葬祭研究所 現代書林
『新しい葬送の技術エンパーミング』

673.9 月刊フェーナルビジネス編集部
『泣いた、笑った「お葬式」日記』

H 385.6 一条 真也 扶桑社
『「あの人がしかったね」といわれる自分なりのお別れ』

